９　公益総合研究センターの活動

Ⅰ．公益ビジネス研究プロジェクト

１．英国ティーズサイド大学（以下「TU」）との研究協力

英国と日本は、政府の財政難などにより、行政でも民間企業でもない「サード・セクター」への期待が高まっているという共通点がある一方、その社会的な影響力などには大きな違いがあり、英国の「サード・セクター」の研究は、「新しい公共」を掲げるわが国にとって、極めて重要な意味を持っている。

平成 23 年 7 月 6 日（水）、ミドルズブラ市の TU において、本学の工藤教和副学長とティーズサイド大学のクリフ・ハードカッスル副学長により、本学の公益総合研究センターと TU の社会未来研究所による研究協力の合意書が締結された。

この合意をふまえ、英国北東部と日本の東北地方の比較分析を中心に、地域活性化のための「公益ビジネス」のあり方などについて、共同で研究を進める予定である。

２．海外調査の実施

21 世紀の都市・地域づくりの課題は、機能性・効率性だけではなく、地域独自の伝統や文化に根ざし、精神的な充足感をも得ることができるような個性的な都市空間と、持続可能な地域社会の仕組みをつくることにある。

庄内地域には城下町や湊町などの面影を残す建造物などが多く残っており、こうした財産をいかに地域全体の活性化につなげることができるかが重要な課題となっている。

そのため、「近代都市計画」から歴史性や地域性を尊重するまちづくりへの転換となったイタリアのボローニャやウルビノ、多額の費用をかけて歴史的建築の復元に取り組んだドイツのアウクスブルクなどの事例を調査し、関係者から直接話を聞いてその意義や課題などを分析し、わが国における「公益ビジネス」のあり方の考察に活かす。

期間：平成 23 年 9 月 5 日（月）～9 月 12 日（月）
出張者：渋川 智明 教授
　　高谷 時彦 教授

３．受託研究・受託事業・補助事業

（１） 受託研究

① 羽黒地域手向地区における「歴史的風致維持向上計画策定事業」に係る調査研究

研究者：高谷 時彦 教授
委託者：鶴岡市
研究期間：平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
契約金額：1,500,000 円（税込み）
研究目的及び概要：

鶴岡市羽黒地域手向地区において、平成 22 年度に実施した基礎調査やアンケート調査の結果をふまえ、歴史的風致を維持向上させるための具体的な保全方法などを提案し、実現に向けての方策を探った。

成果：

調査研究結果を報告書にまとめ、これをもとに手向地区住民への研究報告会を実施した。現在、具体化に向けた検討に入っている。

② 鶴岡市沿岸地域における地域活性化を図るための基礎研究調査

実施者：高谷 時彦 教授

委託者：鶴岡市

実施期間：平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 2 月 29 日

契約金額：230,000 円（税込み）

事業目的及び概要：

水産物など豊かな地域資源を活用した漁村地域の振興および都市と漁村地域の交流の促進を図るために、沿岸地域を訪ねる人の意識調査を通じ、当該地域における来客者の動線、活動エリアおよび滞在時間を分析した。

成果：

学生延べ十数名の協力を得て、鼠ヶ関と由良の 2 ヵ所で、それぞれオンシーズンとオフシーズンの平日と休日のデータを取り、全部で 200 近い回答を得た。その結果を、海水浴以外の活動、宿泊客と日帰り客の動線の違いなど、いくつかの項目ごとに分析し、その結果をふまえて、地域活性化のための提案を行った。

③ 酒田市文化的景観保護推進事業調査研究

実施者：高谷 時彦 教授

委託者：酒田市

実施期間：平成 23 年 9 月 16 日～平成 24 年 2 月 29 日

契約金額：1,299,900 円（税込み）

事業目的及び概要：

酒田市日和山地区周辺を対象に、なりわいの面から見た酒田の文化的価値やまちなみの変遷、建築物の歴史的特徴などの調査や、地域住民へのアンケート調査等を行い、酒田市の文化的景観の保護に向けた計画案等を検討し、提案した。

成果：

報告書を作成、提出した。

（2）受託事業

「産業・文化遺産の再生と活用を通じた地域の再生」

実施者：公益ビジネス研究プロジェクト

委託者：庄内開発協議会

契約期間：平成 23 年 9 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

契約金額：200,000 円（税込み）

事業目的及び概要：

庄内地域における歴史的建造物の再生と活用を通じた地域の再生について、海外の事例との比較研究を行い、報告会の開催や報告書の発行を行った。これにより、庄内地域の産業・文化遺産の再生と活用のための方策について、地域の人々がさらに理解を深めることを目指した。

成果：

写真が 50 枚以上入ったカラフルな報告書を作成し、海外における取り組みをわかりやすく紹介するなど、庄内地域のまちづくりを考えるうえで有益な資料を提供することができた。

（３）補助事業

「被災者に対するカウンセリング・調査活動」

実施者：渋川 智明 教授、照井 孫久 准教授

補助者：財団法人 JKA

実施期間：平成 23 年 6 月 22 日～平成 24 年 3 月 31 日

補助金額：3,000,000 円（概算額）

事業目的及び概要：

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災は、住民の日常生活を支える社会インフラを直撃し、特に、要支援、要介護状態にある高齢者の生活は深刻な状況にさらされている。しかし、高齢者を支える役割を担うケアワーカーもその多くが被災者であり、自ら恐怖を体験し、自宅を失ったり、身内を亡くしたりといった喪失体験を背負っている。したがって、良質な高齢者支援システムを再構築するには、支援の中核を担うケアワーカーの心のケアを含むサポート体制の確立が急務である。

本事業では、岩手県の沿岸部地域における高齢者ケア施設の大震災における被災状況を確認するとともに、事業所職員の心理的ストレス状況を把握し、カウンセリング的なアプローチで職員のストレスの緩和を図ることを目指した。また、地域と事業所が共同で震災復興に取り組む方策について、シンポジウムを開催して議論を深めた。

成果：

被災地でのアンケート調査と、震災の影響を受けていない地域でのアンケート調査結果の比較などから、震災とストレス状況には明確な相関関係が認められることが明らかとなった。一方で、職員のストレス状況は当初の予想以上に深刻で、2～3 回程度のカウンセリングで対応できるレベルではないこともわかった。そのため、2～3 年の長期にわたって心理的ストレスの緩和を図るため、シンポジウムに専門家を招いて関係者向けの講演を行っていただくなどした。

４．公開シンポジウム等の開催

（１）連続講座「内川学 第三講『もう一つの橋詰の物語』」の開催

日時：平成 23 年 11 月 12 日（土）

場所：鶴岡まちなかキネマ キネマ 3

＜内容＞

基調講演：「川と橋からまちを考える」

◎高谷 時彦 教授

第１部：内川学３

「料亭・長山亭ものがたりーもうひとつの橋詰の物語ー」

◎國井 美保（公益総合研究センター 学外研究員）
「内川の環境調査報告」
◎水野 重紀 氏（鶴岡自然調査会）
第２部：「イチローヂ・まち・川再生プロジェクト協議会」中間報告
「イチローヂ・まち・川再生による開放型コミュニティの創設」
◎黒羽根 洋司 氏（「イチローヂ・まち・川再生プロジェクト協議会」企画統括）
「イチローヂ建築調査からわかったこと」
◎堀井 和彦 氏（「イチローヂ・まち・川再生プロジェクト協議会」デザイン統括）
「内川・橋ものがたり」（DVD 上映）
会場セッション：
コーディネーター
◎高谷 時彦 教授

（２）公益ビジネス研究プロジェクト研究報告会「新しい地域像を求めてー被災地・海外から考える」
日時：平成 23 年 11 月 19 日（土）
場所：本学鶴岡キャンパス大学院ホール
＜内容＞
イタリア・ドイツ先進事例調査報告
「まちなかで暮らすしくみと環境づくり」
◎高谷 時彦 教授
「元気高齢者の社会センター」
◎渋川 智明 教授
イギリス先進事例調査報告
「『大きな社会』志向下の社会的企業」
◎工藤 教和 副学長
JKA 震災復興事業 被災者に対するカウンセリング、調査活動報告
「地域復興拠点としての小規模ケア事業所の役割」
◎照井 孫久 准教授

（３）被災者に対するカウンセリング・調査活動補助事業シンポジウム「ケアを支える心のつながり」
日時：平成 24 年 3 月 8 日（木）
場所：あえりあ遠野（岩手県遠野市）
＜内容＞
調査報告：「被災地の高齢者ケア施設への調査・支援活動の経過」
◎照井 孫久 准教授
パネルディスカッション：「ケアを支える心のつながり」
コーディネーター
◎渋川 智明 教授
パネリスト
◎内出 幸美（社会福祉法人典人会 総所長）

◎芳賀 陽二（養護老人ホーム長寿の森吉祥園 施設長）
◎金野 千津（介護老人保健施設気仙苑ディ・ケアセンターセンター長）
◎大富 和弘（NPO いわての保健福祉支援研究会事務局次長）
講演：「ケアする人のストレスマネジメント-震災後のメンタルヘルスに必要なこと-」
◎藤澤･美穂（岩手医科大学健康管理センター 臨床心理士）

Ⅱ．ニュージーランド研究プロジェクト

１．研究会の開催

（１）第 30 回研究会
日時：2011 年 5 月 25 日（水）17:00~18:30
場所：本学酒田キャンパス本部棟 3 階　会議室 32
報告者：マイク・ニコライディ氏（通訳：武田真理子）
テーマ：「フェザーストン捕虜収容所における日本人兵銃撃事件－なぜ事件は起き、隠蔽され続けたのかー」

（２）第 31 回研究会
＊日本ニュージーランド学会、ニュージーランド学会との合同研究会
日時：2011 年 10 月 29 日（土）14:00~17:00
場所：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科会議室　西早稲田ビル 7 階・713 室
報告者：竹原幸太 講師
テーマ：「ファミリーグループ・カンファレンスの研究動向と日本での実践課題：修復的司法から修復的実践へ」

（３）第 32 回研究会
日時：2011 年 11 月 5 日（土）14:00~17:00
場所：東北公益文科大学鶴岡キャンパス　大学院ホール
総合テーマ：NZ の公的部門改革から学べること
基調講演：石原俊彦・関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授（学外研究員）
テーマ：「日本の地方行財政改革～NZ から何を学ぶか」
報告者①：水田健輔教授
テーマ：「NZ 地方政府の財政規律と管理－平時の財政・有事の財政－」
報告者②：和田明子准教授
テーマ：「カンタベリー地震復興庁（Canterbury Earthquake Recovery Authority: CERA）創設をめぐって」

２．『ニュージーランド･ノート』第 13 号・第 14 号の発行

600 部発行し、約 250 部は県内外の関係機関・団体、個人に発送、その他は請求者に送付するほか、本学講義などで活用している。

＜内容＞

・ 第 13 号（2012 年 2 月）

【研究論文】

ニュージーランドにおける大学等への政府助成制度・・・・・・水田健輔（本学教授）
ニュージーランド障害戦略と障害者権利条約批准の政策インパクト
・・・・・・小野浩（きょうされん常任理事）
「タプ」の意味カテゴリー・・・・・・・・・・・・・・・・・橘日出来（日本 NZ 学会）
【ニュージーランドを訪ねて】
ニュージーランド旅行と震災 2011（上）・・・・・・・・・・・・宮本忠（元本学教授）
【ニュージーランド短期留学報告】
第 9 回ニュージーランド短期留学に同行して・・・・・・・西村まどか（本学准教授）
Precious Time・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・石垣博也（本学 3 年生）
One of These Days is None of These Days・・・・・・・・・・加藤勇貴（本学 2 年生）
私のニュージーランド体験記・・・・・・・・・・・・・・・・・佐藤千香（本学 2 年生）
ニュージーランド最高・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・菅原珠美（本学 2 年生）
記憶の 1 ピースに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・高橋一生（本学 2 年生）
Precious Days・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・畠山貴衣（本学 2 年生）
私と鍵とニュージーランド・・・・・・・・・・・・・・・・・宮原絵美里（本学 2 年生）

・ 第 14 号（2012 年 3 月）
【巻頭言】
自治体改革のお手本は NZ にあり・・・・・・・・・・・・石原俊彦（関西学院大学教授）
【研究論文】
ニュージーランド政府の財政規律と管理・・・・・・・・・・・・水田健輔（本学教授）
地震災害に対するニュージーランド政府及び地方自治体の対応
・・・・・・和田明子（本学准教授）
Mike Nicolaidi「Featherston Chronicles」の翻訳出版と出版記念セミナーのための
来日の経過について・・・・・・村田則子
Notes for Talk at Seminars in Japan - 23-30 May 2011・・・・・・・Mike Nicolaidi
「ニュージーランド・フェザーストン戦争捕虜収容所における日本人兵銃撃事件」
・・・・・・マイク・ニコライディ（日本語訳：武田真理子本学准教授）
ニュージーランドのファミリーグループ・カンファレンスと修復的実践研究
・・・・・・竹原幸太（本学講師）
【ニュージーランドを訪ねて】
ニュージーランド旅行と震災 2011（下）・・・・・・・・・・・・宮本忠（元本学教授）
宮本由紀子（三重オーストラリア・ニュージーランド協会理事）

３．ニューズレター「アオランギ」第 29 号・第 30 号の発行

各号とも、約 250 の県内外の関係機関・団体、個人に発送、その他、学内外で配布・活用している。

４．酒田市図書館報『光丘』への連載記事の執筆

酒田市立中央図書館よりニュージーランド研究所に対して、平成 23 年度の図書館報『光丘』への連載記事の執筆依頼があり、受託した。執筆は学内・外研究員が担当し、各号

の内容は次のとおりであった。

・第 139 号（2011 年 8 月 1 日）

「ニュージーランドと日本：震災と絆」

宮崎智世（ニュージーランド大使館 大使付エグゼグティブ・オフィサー）

・第 140 号（2012 年 2 月 1 日）

「ニュージーランドの経験を活かす―ダニーデン･オタゴ大学訪問時に考えたことー」

水田健輔（本学教授）

５．東北公益文科大学メディア・センター「ニュージーランド文庫」の充実への協力

本学のメディア・センター「ニュージーランド文庫」のさらなる充実のために、社会科学、人文科学を中心とした最新のニュージーランド文献、寄贈文献、その他資料等を選定し、メディア・センターに寄贈した。

６．その他の活動

今年度も、本学ニュージーランド短期留学プログラムの運営協力、国内メディアへの取材協力、酒田市内のまちづくり勉強会の開催協力をはじめとし、学内外の様々な事業、研究活動への協力活動を実施した。

Ⅲ．環境プロジェクト

１．シンポジウムの開催

（１）「森林を生かした地域の活性化」

日時：平成 23 年 9 月 30 日（水）13:30~16:20

場所：本学鶴岡キャンパス大学院ホール

＜内容＞

基調講演：「種多様性を生かした林業再生－震災を越えてー」

◎清和 研二 氏（東北大学大学院農学研究科教授）

パネルディスカッション：「庄内の森林資源の活用と木質バイオマスエネルギー」

コーディネーター

◎野堀 嘉裕 氏（山形大学農学部食料生命環境学科教授）

パネリスト

◎五十嵐 政一 氏（株式会社渡会電気土木営業部長）

◎後藤 徹 氏（山形県庄内総合支庁産業経済部森林整備課課長補佐）

◎佐藤 重夫 氏（温海町森林組合 代表理事組合長）

◎清和 研二 氏（東北大学大学院農学研究科教授）

◎高橋 健一 氏（協同組合やまがたの木乾燥センター理事、升川製材株式会社代表取締役）

統括：

◎山形 与志樹 氏（独立行政法人国立環境研究所地球環境研究センター主席研究員）

（２）最終報告会

日時：平成 24 年 3 月 19 日（月）9:00~14:30
場所：本学酒田キャンパス公益ホール 2 階中研修室
＜内容＞
研究報告 1「地域間産業連関表の作成と解析」:
◎山越 啓一郎 助教
研究報告 2「エネルギー消費統計と産業連関表を利用した CO2 排出量の推計」:
◎山本 裕樹 講師
研究報告 3「山形県 4 支庁における供給可能な森林バイオマス資源量の試算」:
◎野堀 嘉裕 氏（山形大学農学部教授）
研究報告 4「消費者との連携による低炭素指向循環型地域農業システムの開発」:
◎小沢 亙 氏（山形大学農学部教授）
研究報告 5「低炭素まちづくりへの課題」:
◎白 迎玖 准教授
研究報告 6「資源リサイクル・廃棄物管理における低炭素社会システムの検討」:
◎一ノ瀬 大輔 講師
ディスカッション及び講評：
コメンテーター
◎早見 均 氏（慶應義塾大学商学部教授）

２．現地調査の実施
（１）「ひがしおうみ環境円卓会議」および市内視察
日時：平成 23 年 6 月 21 日（火）～22 日（水）
調査地：滋賀県東近江市
目的：環境問題への取り組みに関して地域への啓発活動（ワークショップ等）を先駆的に行っている東近江市の事例を調査し、本プロジェクトの参考にする。

３．印刷物の発行
（１）ディスカッションペーパーの発行
昨年度に引き続き、本プロジェクトのメンバーによるディスカッションペーパーを作成し、シンポジウムなどで配布した。
（２）エクゼクティブサマリーの作成
本プロジェクトの概要を 6 ページにまとめたエグゼクティブサマリーを作成し、広く市民に配布した。
（３）最終報告書の作成
3 年半にわたる研究成果をまとめた最終報告書（CD-ROM 付）を作成し、科学技術振興機構をはじめ関係者に送付した。
（４）書籍の発行
慶應義塾大学出版会から、黒田昌裕・大歳恒彦編著「脱温暖化 地域からの挑戦 －山形・庄内の試み－」という書籍を出版した。

４．その他の活動

（１）産業連関表研修会の実施

山形県や県内市町村の職員を対象とした産業連関表の研修会を、12 月 2 日（金）に本学公益ホール 2 階中研修室で実施した。

Ⅳ．庄内プロジェクト

１．研究会の開催

（１）第 1 回研究会

日時：平成 23 年 4 月 13 日（水）16:20~17:50

場所：本学酒田キャンパス教育研究棟 209 教室

内容：森岡清志編『地域の社会学』（有斐閣アルマ）を読み、「地域」概念の基本認識を共有した。

（２）第 2 回研究会

日時：平成 23 年 5 月 18 日（水）16:20~17:50

場所：本学酒田キャンパス教育研究棟 209 教室

内容：地域の課題解決と 4 つの地域空間の関係について、各教員が持ち寄った事例をもとに議論した。

（３）第 3 回研究会

日時：平成 23 年 6 月 8 日（水）13:00~15:00

場所：本学酒田キャンパス教育研究棟 210 教室

内容：庄内地方における地域課題の解決手法とその主体について、各教員が持ち寄った事例をもとに議論した。

２．フォーカスグループインタビューの実施

庄内地域の若手リーダーとして様々な分野で活躍している方が、地域や大学に対してどのような思いを持っているのか、地域課題についてどう考えているのかなどを知るため、平成 23 年 10 月 30 日（日）、酒田市・庄内町・鶴岡市の 3 ヵ所の会場に、それぞれ 6～7 名ずつを招き、フォーカスグループインタビュー形式で意見を聴取した。